

## 「関西学院大学社会学部卒業生調査」データの分析及び活用について

このたび社会学部卒業生調査は、50周年記念事業の一環としておこなわれました。その目的は、大きく2つあります。

第一に、これからの社会学部の教育・研究を考えていくための指針を得るという目的があります。今回の調査では、卒業生の皆様に、社会学部ですごした4年間がその後の人生に与えた影響や意味をお尋ねし、さらに社会学部の教育・研究についての意見をお寄せいただきました。こうした意見を分析していくことにより、これからの社会学部の教育・研究について考えていきたいと思っております。

第二に、学生たちがそれぞれのキャリアや人生設計を考え準備するうえで、重要なヒントや示唆を得られる基礎資料にしていきたいと考えています。卒業生の皆様に、具体的に職業経歴やライフヒストリーをお尋ねしていくことで、卒業生の方々がどのようなライフコースを歩んでこられたのか分析したいと考えています。その上で、学生たちが、社会学部の先輩たちの職業や人生を知ることにより、自分の人生設計を考えていく手がかりを与えていきたいと考えています。

以上2つの目的の達成をめざしながら、さらに次の50年に向けて社会学部の新しいあり方を模索していきたいと考えています。

今回いただいた貴重なデータをできるだけ有効に利用し、さらに上記の目的を達成していくために、今後大きく2つの方向で、卒業生調査を活用していきたいと考えています。

第一に、データを社会的、社会心理学的、教育学的、などさまざまな側面から詳細に分析していくことにより、卒業生の方々の意見やライフコース、職業経歴の特徴を明らかにしていきます。

第二に、第一の目的の結果得られた知見を学生に還元し、また学生教育に本調査で得られたデータを活かしていくことで、学生への社会学教育、キャリア教育に役立てていきます。

具体的には、次のような方針で進めていく予定です。

### (1) データの詳細な分析

#### (a) 学部内研究会による検討

学部内に研究会をつくり、その中で分析をし、議論しあうことにより、卒業生調査の内容についての詳細な検討をおこなっていきます。

#### (b) 学会等での報告

学会等での報告していくことにより、他大学の研究者にもコメントをいただきながら、また同じような研究、課題を持っている研究者と交流しながら、社会的に、より広汎、詳細、厳密な分析をおこなっていきます。

#### (c) 報告書の作成

(a) (b) を通じて、卒業生調査の報告書をまとめ、今後の社会学部の教育・研究のための基本資料とします。

**(d) 研究論文の発表**

さらに研究論文としてまとめ、分析によって明らかになった知見について、公表していきます。その過程で、卒業生調査の分析をさらにすすめ、学部教育に還元するための知見を集積していきます。

**(2) 学生教育への活用**

**(a) 学生向け報告会の開催**

上記(1)における研究会、学会等での報告を通じて明らかになった関学社会学部卒業生の特徴や学生に向けたアドバイスについて、学生向け報告会を通じて、報告していきます。

**(b) 学生向け報告書(リーフレット)の作成**

社会学部での生活、あるいはキャリア形成についての卒業生の意見や実態をまとめ、学生向けに報告書の形で周知していきます。それにより、学生生活の送り方、職業活動の送り方、キャリアの積み方など、大学時代とその後の人生への指針を提供していきます。

**(c) 授業での利用**

卒業生調査のデータを授業内で実際に分析していくことで、学生たちが卒業生の意見や活動を直に知りながら、社会学や統計学の知識を獲得していくことを目指します。また特に関心のある学生には、卒業論文の中で卒業生調査データを利用することを認めます。学生自身が研究に取り組むとともに、自分の人生を設計していくことを目指します。これらの活動は、社会学部でしかできない、あるいは社会学部だからこそ可能な教育プログラムであり、卒業生調査を学生教育に還元していくための、有効な方法であると考えています。

なお、上記の研究、教育へのデータの利用の際には、以下の点に配慮していきます。

(ア) 個人が特定されるような分析、データの利用はおこなわない。

(イ) 卒業生の方々のご協力の意思を十分尊重した分析、活用をおこなっていく。

2010年5月

関西学院大学社会学部長 宮原浩二郎

関西学院大学社会学部 50周年記念事業委員会委員長 安藤文四郎

同 委員 渡邊 勉

同 事務局(社会学部事務室内) 北井晃一